



にしなふみひで  
仁科文秀 議員

### 激減する笠岡市の出生数 企業誘致より子供子育てに予算配分を！



**議員** 令和4年度の市民アンケートでは、市長が力を入れている企業誘致によって雇用が増えたと思う割合は13・5%、思わないは40・9%。本市の将来を考えたとき、今年度4月から10月までに井原市、浅口市より少ない、わずか100人しか生まれていない状況に市長として危機感はないか。

**市長** 出生数は確かに100人だが、小学校に上がる5年後までに児童数は増えてくる。企業誘致が雇用につながることは事実で、固定資産税、市民税に変わる。それを子育て支援等に再投資できる。

**議員** 企業誘致ですぐに子供や転入者が増えることはない。保護者が理想の子供数を持ってない大きな理由は経済的負担である。出生数

を増やすことを喫緊の課題として取り組むべきだ。改修費、賃借料等に1億円以上かかり、議員や市民も賛成していない美の浜の商業施設への子育てステーション設置にこだわり続けるのはなぜか。

**市長** 市内外の人々に本市を住む場所として目を向けてもらい、子供・保護者に寄り添った事業展開を図る拠点としたい。美の浜は絶好の立地であり本市の子育て支援を実感し子供を2人、3人と育てていただきたい。優先順位は高い。

**議員** 昨年8月、本市が参考にした広島県府中市の施設を視察した。平日とはいえ閑散としており、にぎわいの場所、将来的に出生数が増えるとは感じなかった。本市にはもっと緊急性のある事業がある。



おおもとくにみつ  
大本邦光 議員

### 高齢者ドライバーの 事故防止について問う

**議員** 自主返納された高齢者におけるタクシードライバー事業の今後の救済処置としての見直しについてたずねる。

**政策部長** 現在、公共交通計画を策定する作業を行っている。その中で、公共交通や、それを補完する事業とのバランス、関係性を検討しながら、今後必要な支援のあり方を考えたいと思っている。

**議員** 車の運転は高齢者の生きがいや尊厳にもつながっている。高齢者の自主返納について本市の思いをたずねる。

**危機管理部長** 返納された方が、生活や、移動手段の確保などで困らないように、制度を検討していきたい。



### ワクチン接種の呼びかけ 強化について問う

**議員** 接種率には、年代別に大きな差がある。若い世代、特に働く世代の接種率向上に向けた施策をたずねる。

**健康福祉部長** 若い世代、あるいは働く世代の方の接種率が低いことは十分認識している。具体的な策として、副反応による症状を回避される方が非常に多いことから、金曜の夜に接種、土日の副反応で月曜日にはある程度症状が少なくなるのではないかと。現在、金曜の夜に接種枠を設けて集団接種を行っている。11月の終わりの金曜日に枠を設けたところ、やはり予約がいっぱいになった。このことから、働く世代の方の中で、金曜の夜に接種を希望されている方が多いことを実感した。